



104歳の門徒さん

写真は島村さんご一家です。真ん中のきれいなおばあさまが島村華子さん。なんと明治43年9月5日生まれの104歳！西来寺の御門徒の中で最高齢です。お彼岸お盆には必ず、お子さん、お孫さん、ひ孫さんの総勢数十名でお参りなさいます。御名前の通りまるで桜の花のよう

に美しく朗らかな方で、お声も透き通っていてとてもきれいな声です。いつも皆さんへの感謝の言葉を話していらつしやるお姿を見て、こちらの方も幸せになってくるようです。以前はよく着物を着ていらつしやいました。お弟子さんが集まるほど和裁がお上手で、自分の着物は勿論お子さんの着物もたくさん仕立てられたそうです。

ご長男にお伺いしました。「軍人だった父は三年間の闘病生活の後、他界しました。横須賀高校に通っていた私は進学をあきらめて就職しました。そのころのお給料袋は先ず、母に渡しました」兄弟6人と華子さんみんなで力を合わせて頑張ってきました。今では6人のうち、3人が会社を経営されています。華子さんの健康の秘訣を伺うと「自分もそう



ですが、毎日の積み重ねだと思えます。あとは背伸びをしないことです。ね」とのこと。見栄を張らず無理をせず、感謝を重ねて今の華子さんがいらつしやるのでしよう。

ご長男は高校生の時失明の危機に遭われたそうです。「今でもその時の真つ暗闇をよく憶えています。毎日母が手をひいてくれて眼科のお医者さんに通いました」暗闇の6ヶ月間は大変な時期だったことでしょう。その時、自分を導くお母さんの温かい手がどれほど心の支えになったことでしょうか。

華子さんは次男さんの家で暮らしていらつしやいます。洋服の着脱も身だしなみを整えるのも全部ご自分でなさるそうです。外食にも出かけるとか。お子さん達はお母さんに会いに行くのがとても楽しみと口を揃えておしゃっています。

華子さんは戸籍では「はな」とひらがなで書くそうですが、ご自分で「華」としていらつしやるそうです。写真でおわかりの通り本当に「華」がピタリの素敵なお方なんです！人生の素晴らしいお手本ですね。

ホームページでも報恩講の写りがみられます <http://sairaiji.com>

西来寺報

二〇一四年 冬 第十六号

今年の報恩講

毎年、西来寺の報恩講の頃には境内の至る所で石菫（つわぶぎ）の黄色い花が咲きます。また今年も報恩講の季節がやってきました。

今年の報恩講は東方学院の院長、前田専學先生をお呼びして、ゴータマ・ブツダのころという講題でお話しを頂きました。当日は満堂の賑わいを見せ、立ち見の人もいらつしやいました。ゴータマ・ブツダと言いますと聞き慣れない人もあるかと思えますが、お釈迦さまのことです。お釈迦さまは釈迦族の聖者と云うことで釈迦牟尼世尊と云います

が、御名前はゴータマ・シッダールタと言います。名前のゴータマと梵語の目覚めた者という意味でのブツダという語を合わせてゴータマ・ブツダと呼ばれています。さて、今回は初期の経典の言葉を引用してお釈迦さまのころを語って頂きます



西来寺の石菫（つわぶぎ）10月27日撮影

た。一見、浄土真宗の教えと離れているようですが、仏教の基本的な教えは変わりません、2500年前お釈迦さまが説かれた教え、その精神がずっと流れて、親鸞聖人の所まで流れて、現代に伝わってきています。ですから親鸞聖人はお釈迦様を大聖と呼び、和讃の中では「恩徳大釈迦如来」と讃えています。いつまでもその智慧と慈悲のころは受け継がれていくことでしょう。



前田先生は笑顔が印象的で、優しい声で話してくれました



釋正賢、釋真教、今年も法要を勤めました

本のプレゼント

今年も報恩講に多くの方に参加していただいた御礼として、前田先生の本など、西来寺おすすめの本を各10冊プレゼントします！

ご希望の方は、次の必要事項を明記の上、ハガキでご応募ください。

- ・お名前・住所・年齢
 - ・希望する本の番号とタイトル
 - ① 『ブツダ』前田専學
 - ② 『ブツダの言葉』佐々木一憲
 - ③ 『インド仏跡ガイド』桜井俊彦
- あて先 〒238-0051
横須賀市不入斗町3丁目38番
西来寺プレゼント係



報恩講の感想、こんなこと話してほしい、あの人にきてほしいなど報恩講へのご意見をご記入いただければ、優先的にプレゼントさせていただきます。

除夜の鐘（大晦日）修正会（元日）

除夜の鐘の打鐘

十二月三十一日（水）
午後十一時四十五分

西来寺梵鐘は横須賀市内に残る最古の梵鐘で、横須賀市の指定重要文化財です。みなさんでついで、新しい年を迎えましょう。

修正会

一月一日（木）
午前十時

修正会は元日に行われる法会で、その年の生活の目標を立て、心を新たに求道の道を進む決意をします。

私たちに何かが本当に大切なことであるかを改めて考え、新たな一年に臨むのが修正会です。

是非、ご参加ください。



日差しが暖かさと、空気の冷たさを同時に感じる、秋晴れの日になりました。報恩講の朝は一年の中でも最もぎやかな朝のひとつです。この日を機会にとご家族でお墓参りに来られる方も多くいらつしやいます。また、講演を楽しみに来られる一般聴講の方も早い時間からいらつしやいました。

昨年に引き続き、報恩講特別講演は、門徒さんのみならず一般聴講を募りました。何人来ていただけるか心配でしたが、法要開始以降は、どんどん本堂内の席が埋まり始め、予想を超える聴講者の数に、急遽、補助の椅子を出し、多目的室にある椅子を出し、普段は廊下にある椅子など、西来寺中の椅子をかき集めました。最終的には立ち見になってしまいう人も出てしまうほどの盛況になり、感謝しております。

今年の報恩講特別記念講演は、NHK「この時代の時代」など出演されていた前田専学先生をお招きし、講演していただきました。講題は「ゴータマ・ブツダのころ」です。

本当の仏教を知ってほしい

今年の報恩講はインド哲学の権威でいらつしやる前田専学先生をお招きして、講演をして頂きました。講題は「ゴータマ・ブツダのころ」です。

ゴータマ・ブツダが本当は何を言いたかったのか今回のテーマなのですが、なせ2500年も前のことですから、それを知るのには気の遠くなるような作業です。何万もの教え(お経)の中から選び、翻訳し、比較し、調べ吟味しなければなりません。今回の講演でよく出てきた言葉「スツパニパータヤダンマパダ、そして大パリニッバーナ経はインドの古語で書かれたお経ですが、前田先生はこれこそお釈迦さまの教えに近いと仰っています。

お釈迦様の教えとはなんだったのでしょうか? 今回先生が一番強くおっしゃったのは「寛容の心」そして「慈悲の心」だったと思います。「怨(うら)みに報いるに怨みを以てしたならば、ついに怨の息(や)むことがない。怨を捨ててこそ息む。これは永遠の真理である」というブツダの言葉があります。心の問題については2500年前と現在とはさほど違っていないようです。

「科学技術が発達しただけで、人間の本性は変わっていない。今も人間は縄張り争いのようなことばかりしている。ブツダが21世紀に生きていたら何を語られたらうか?」そういう切り口で前田先生は語り始めました。前田先生の講演は独特の空気があります。自分はこの話を話したから、聴講者にはこう反応してほしい、というような気持ちを感ぜないのです。

「**実にこの世において、怨みに報いるのに怨みを以てしたならば、ついに怨みの息むことがない。怨みを捨ててこそ息む。これは永遠の真理である。**」

数十年前ぶりに学生になった気分「テレビで見る暗いニュースを明日から違った気持ちで見られそう」などみなさんからお言葉、また笑顔を見ていただくことができました。

今年の報恩講も終わり、ほっとした気持ちわがわが上りますが、閉会の挨拶で住職の言葉にあったように、私たち真宗門徒にとって、報恩講は大切な一日です。しかし、

ブツダの言葉や物事の見方を伝えるだけで、それを聞いた私たちがそこから何を感ぜ考えて、どういかにしていくかは、任せている。信じている。穏やかな口調で語られている中に凛とした空気を感ぜる講演でした。ですから、講演を聞いて抱いた感想は人によって様々だったのではないのでしょうか。講演が終わり「テキストがあつたから分かりやすかつた」「なんだか

その一日だけが大切なのではなく、報恩とは何かと考えると「如来大悲の恩徳は」と恩徳讀にあるように仏さまの願いを知っていただく、仏さまの願いがかけられている私であることを気付いていくということなのでしょう。ですから、次の報恩講までの一年を報恩行(ほうおんぎょう)の毎日として大切に過ごさなければいけないのではないのでしょうか。

現在、仏教と名乗る多くの宗教があります。思いっきり火をたいたり、奇抜なことをしたり、はては恐怖で支配したりと枚挙にいとまがありませんが、こういった本来の仏教のありかたから外れてしまっているものが本当に多いのではないのでしょうか。

本来、お釈迦様が説いた仏教は寛容で温かな心なのだと思います。そしてその教えは前田先生や中村元先生のような卓越した方の、謙虚な、そして気の遠くなるような地道な作業によつてはじめて詳らかになるのです。本当の仏教を知ってほしい、その一端を今回の講演でご理解頂けたらという強い願いがあり、前田先生に講演をお願いいたしました。

前田先生が講演中にお名前をあげていたインド哲学の世界的権威である中村元先生も私の恩師です。私が西来寺に嫁ぐことになったことを一番最初に報告に行ったのが中村先生の所でした。私が「結婚することになりました」と報告しますと、先生は「どちらに嫁がれるのですか?」とおっしゃいました。「横須賀です」と答えました、先生は記憶をたどるような遠い目をなさつてから「ああ、横須賀ですか。緑の多い、きれいなところですね」とうれしそうに言つて下さいました。横須賀がどんなところか



知らなかつた私は「先生がそうおっしゃるのなら良い所なんだろうな」と思い、ほつとしたことを昨日のことのように思い出します。

中村先生や前田先生が明らかにして下さつた本当の仏教が一人でも多くの方の心に届くのを願つてやみません。微力ではありますが、少しでもそのお手伝いができればそれほどの幸せはありません。

最後に西来寺の報恩講は、当日だけではなく、準備の段階でも沢山の門徒さんの力をお借りしています。皆様の力なくしては、報恩講を成功させることはできませんでした。本当にありがとうございます。



「お寺の話なんて難しいと思つた。聞いた後、優しい気持ちになつていた」

聴講者の感想より

2014年 報恩講報告